

地元グループが中心となり農地集約化を進めた事例

うた えだ
(大分県豊後大野市宇田枝地区)

農地整備事業
中山間地域

地域の状況

- 宇田枝地区内3地区(宇田枝・津留・左右知)は、農地区画が不整形であり、農道狭小、排水不良、開水路の老朽化等で生産効率が悪く、担い手への農地集積率は、宇田枝61.8%、津留49.2%、左右知34.7%と、担い手への集積が進んでいない。
- 農事組合法人等が水稻・麦・大豆の栽培に取り組んでいるが、作業は高齢化した専業農家と兼業農家が主であるため、リタイア後の担い手対策が急務。
- 3地区が利用する全長13kmの宇田枝井路は、河川沿いの急峻な場所に位置し、隧道部分もあるなど維持管理に労力を要するため、高齢化した農家だけでは厳しい状況であった。

(注)「宇田枝・津留地区」は、人・農地プランの区分としては実質化したプランとなっている。



取組の内容

- 平成25年に3地区の農事組合法人や土地改良区役員の60代～80代を構成員とした事業推進協議会を立ち上げ、将来の地域農業の担い手や水利施設の管理体制について話し合い基盤整備の事業化に至った。
- 事業化に向けては、事業制度や農地集積に詳しい地区在住の元県土連職員が中心となり、地元の各種会合で事業化の必要性や事業の説明を繰り返し行い、地元農家の理解を求めた。
- 宇田枝井路は近年の災害で繰り返し被災。高齢化した農家だけでは施設の復旧は困難であったため、地区の若手農家の参加を促し施設を復旧。将来の水利施設の維持管理を考えるうえでも、担い手育成の重要性を認識。
- 事業着手後は、将来の地域農業を支える若手農家(30代～50代)を中心に構成した『宇田枝地区農用地利用集積推進協議会』を設立(平成31年3月)。

成 果

- 区画整理・用水のパイプライン化、暗渠排水による水田の畑地化を図るため、「農業競争力強化農地整備事業」を今年度から実施。
- 農作業の効率化と生産性向上(機械化)により、玉ねぎ等の高収益作物を導入した生産増による所得増加(目標:1,000万円)を図るとともに、新たな担い手(専業農家)の育成に取り組む。
- 事業完了後は、高収益作物に取り組む新たな担い手を中心とした法人が設立され、人・農地プランの新たな中心経営体となることが期待できる。

